

ウクレレコンサートでハワイアン気分

通所リハビリテーションセンター「茶釜の湯」で12月20日、ウクレレをメインにしたバンド「アロハウクレレ」が演奏会を開きました。演奏会には、茶釜の湯やデイサービス「ヒューマンハウス」、介護老人保健施設「すばる」、特別養護老人ホーム「ヒューマン・ハウス」の利用者さん、地域の人たちなど約200人が参加し、ハワイアンサウンドを楽しみました。

「アロハウクレレ」バンドは、栃木県シルバー大学校で2年間、地域活動や福祉を学びながらウクレレクラブで集ったOBたちで結成。今年で10周年を迎え、25人のメンバーで演奏活動を行っています。代表で多田正毅理事長の同級生、若林薫さんは「ハワイアンをベースに、身近な曲を演奏しています。優しい癒しのサウンドが持ち味です」と話していました。

演奏会は13人のメンバーが出演。『黄昏のビギン』を皮切りに、軽快なサウンドを披露しました。クリスマスにちなみ、『ホワイトクリスマス』を演奏、『清しこの夜』、『赤鼻のトナカイ』の2曲を会場の人たちと一緒に合唱しました。

『カイマナヒラ』と『プアマナ』の2曲は、メンバーのフラダンスも披露。『見上げてごらん、夜の星を』や『いい湯だな』など親しみのある曲も演奏しました。演奏が終わると、アンコールの拍手に応え『今日の日はさようなら』で、コンサートは締めくくられました。

平成28年12月21日

